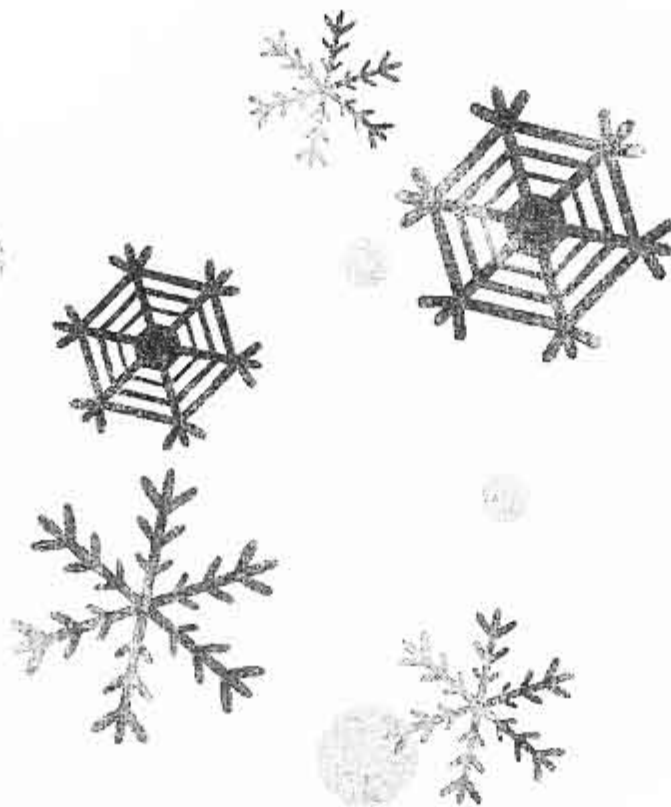


# ♪ シニア便り ♪



第 12 号 (2008年2月発行)

発行 北海道シニア吹奏楽団 事務局

編集 『シニア便り』編集部

## 新入団員からのインタビュー

『リスタート』

ホルン 伊藤 英明

今、振り返れば、仕事をしてきた時代はかなり無理をしていました。仕事が大好きで、朝早くから夜遅くまで目一杯働き、それから渋谷の繁華街に繰り出して終電までの2〜3時間をタバコの禁煙と酒をたたく飲んで、という毎日の行き着く所は「脳梗塞」でした。

リハビリを懸命に頑張っても後遺症の回復には極めて長期間を要すると診断され、思い切って会社を辞めて生まれ育った札幌に移り住みリハビリに専念することにしました。

それから4年、ようやく歩けるようになりましたが、さて何を始めようか。仕事を辞める決断をしたのだから人生に悔いのない有意義なことをと思い、たどり着いたのが、中学・高校時代に心を弾ませて頑張った吹奏楽をもう一度楽しもうということでした。

思い立ったら吉日。早速、インターネットWebでの吹奏楽団探しが始まり、そこで見つけたのが「北海道シニア吹奏楽団」でした。何よりも気に入ったのが、コンクール出場や技術向上だけを目的とせず、音楽を生きる糧にして豊かな人生を楽しむということでした。私にぴったりの楽団だと思い、さっそく見学を申し込みました。しかし、私は中学・高校時代にユーフォニアムを演奏していま

したが、ユーフォニアムのパートは充足されていると、憧れていたけれど楽器に触ったことも演奏したこともないホルンをやりたいとお願ひしてしまいました。こんな失礼な話は無理かなとも思ったのですが、快く希望をきいて下さり、「60の手習い」でホルンを始めることになりました。

さて、北海道シニア吹奏楽団の団員になつてから、早くも7か月が過ぎました。まだまだホルンのレッスンを続けている勉強中の身ですが、第14回定期演奏会に参加させて頂くこともでき、感激と共に張り合いと充実を感じる毎日を送っています。何よりも、合奏の素時らしさを改めて味わっています。18歳で停止していた吹奏楽の楽しみを60歳で「リスタート」です。シニア吹奏楽団の皆さま今後ともよろしくお願ひ致します。

クラリネット 長岐 好子

初めまして、クラリネットの長岐です。このたび、シニア吹奏楽団に入団させて頂き大変うれしく思っております。

私とクラリネットとの出会いは高校1年生の時からです。それからもう30年以上も前のことです。

当時開校間もない学校に入学した私は、2年生90人、1年生が90人の合計で180人の学校でした。教師の人数もまた少なく、当然音楽の教師は非常勤の方で、

毎日いらつしやるわけではありませんでした。

そんな中で9人もの好きな生徒が集まり「吹奏楽部」を作りました。

しかし、当時10人以上でなければ「部」となりません！

「同好会」から始まったのでした。9人と云う少ない人数で楽器の吹き方も良

く分らないまま始まったのが私です。顧問の先生も化学の先生でいま「指導」の面では何も教えてくれることもなく試行錯誤しながら音を出したような気がします。ですから自信ではありませんが「基本」が全く出来ていません。全て「白」流です。

ちつとも上手ではなかったけれど9人の仲間と居ること自体が楽しかったのかもしれないですね！

シニア吹奏楽団に入団し、ふとその時と同じ匂いを感じる時があります。

色々な幅のある年齢層の中にいたわり合いながら奏でる音楽の心地よいこの気持ちを大切にしたいです。これからも宜しくお願いします。

パーカッション 高橋 加奈子

私は、太鼓をたたくのが大好きです。楽器はいろいろ体験してきましたが、やっぱり一番好きなのは打楽器です。リズムをきき、ズンズンとびびく太

鼓がみなさんのハーモニーと合った時にとてもうれしく気持ちがいいです。

ドラムセットをかつこよくたたいたのはもちろん好きですが、バスドラムやティンパニのような、曲を支える楽器は地味ですがとても大切なものと自負しているのも大好きです。ティンパニはその中でも華やかな楽器で複雑な動きでたたくことも多く、それが曲とがっしり合ったりまするととても満足感や達成感があるのです。

シニアバンドに入団させてもらい、今もまだこうして吹奏楽を続けていけるのはとても素敵なことだなあと感じます。パーカッションは楽器が多くて運搬・セッティングがとても大変ですが、みなさんが協力して楽器の出し入れをしてくれるシニアバンドはとても心強いです。団の雰囲気も温かく、居心地のよい場所だなあと思っています。

これからも団員が増え、活気がますます出てくることと思いますが、このアットホームな雰囲気と、協力して曲を作りあげる本格的な取り組みはいつまでもあつてほしいと思います。また、その一員に入れていただき本当に感謝しています。これからも、もっとティンパニやドラムが上手にたたけるように練習したいと思ひます。

少々、通うのに遠いので休みがちになるのが申し訳ないのですが、できる限り練習に参加し、みなさんの仲間としてがんばりたいと思ひます。

シニアバンドのご発展をお祈りして  
います。

これからもどうぞよろしくお願  
いいた  
します。

### 『私の吹奏楽雑誌帖』

副団長・常任指揮者 中村 暁 生

### (七) 音楽用語 続

音名の呼び方の歴史的背景について前  
号で書きましたが、今日は速度標語や曲  
想標語、楽器の名前などについて少し書  
こうと思つていきます。

西洋音楽の歴史とキリスト教は切つて  
も切れない関係にあります。16世紀頃  
までは教会で歌われる合唱音楽が主で器  
楽はその伴奏をする役割でした。弦楽器  
を主体にした器楽の合奏が独立したのは  
16世紀の後半から17世紀にかけてで、  
その中心はイタリアでした。

♩や♩といった強弱標語、アンダン  
テやアレグロといった速度標語、マエス  
トローソやプリランテといった曲想標語が  
使われたのもイタリアが最初で、当時ヨ  
ーロッパの各地から勉強に來ていた音楽  
家たちによってその方法は広められ、以  
來今風に言えばグローバルスタンダード  
として定着したのです。

ドイツに留学した山田耕柝や橋本國彦  
の作品には補助的に「ゆるやかに」とか  
「愉快に景気よく」とか書かれています

が速度や曲想はイタリア語で書かれ、彼  
らから教えを受けた多くの日本人作曲家  
の殆どがそれを受け継いでいます。

ヨーロッパのクラシック音楽を日本と  
同じように遅れて学んだロシアの作曲家  
たち、グリシカ、チャイコフスキーから  
近代のシヨスタコーヴィチ、プロコフィ  
エフに至るまで速度や曲想についてはイ  
タリア語を使っています。

しかし、自分の国の言葉が世界一美し  
いと思つているフランス人の作曲家、例  
えばドビュッシーなどはフランス語で、  
自国語に高い誇りを持つていたシューベ  
ルトやワーグナーは多くの作品の中でド  
イツ語で書いたりしています。

一方アメリカの作曲家達、特に吹奏楽  
の作品を書いている人達は英語による標  
示が多いのですが、中を見ると強弱記号  
などはやはりイタリア語を使っています。

次に楽器名やその他の音楽用語ですが、  
これは「何でも有り」の状態で英、伊、  
仏、独が主ですが、組曲などである曲の  
全部が休みの場合 Tacet (タケト)  
と書きますがこれは「沈黙する」と言う  
意味のラテン語で、標語がイタリア語  
楽器名がフランス語であつても使われて  
いるのは本当に不思議です。

日本の吹奏楽は永らく陸海軍軍楽隊が  
中心で、フランス語とドイツ語が使われ  
てきましたが、今では編成も楽器名もす  
っかりアメリカナイズされてしまいまし  
た。

当団の第12回定期演奏会で取り上げ

た「アルルの女第2組曲」の楽譜はフラ  
ンス版でしたが、そもその出処はキャ  
ルド、それが旧陸海軍軍楽隊→警視庁音  
楽隊→陸上自衛隊中央音楽隊→東京消防  
庁音楽隊を経て来たもので楽器名は手書  
きの英語の注釈が付いていましたが、私  
にとつてはホルンを Cor (コール) と  
書いてあるのがとても懐かしく感しまし  
た。

私は最初に担当した楽器はアルトホル  
ンで当時はホルンと一緒に同じ楽譜を吹  
く仲間同士だったのです。そこで名付け  
たのが「アルコール会」、練習が終わると  
夜な夜な連れ立って練馬の下町を飲み歩  
いたのと言つてもありません。

この稿の最後に問題です。次の言葉は  
何の楽器名ですか？

①オッタピート、②ベッケン、③ボザウ  
ネ、④グラン・ケース、⑤アルバ、

※答えは、編纂後記の後をご覧ください。

## チューニング広場

『雑感』

チューバ 渡 辺 昭 夫

シニア吹奏楽団の一番の変わり者とた  
ぶん思われている、チューバの渡辺です。  
私と吹奏楽の始めての出会いには中学生の  
ときに始めて聴いた時の生の楽器のあま  
りに大きな音にびっくりしてからです。  
高校生の時、当時応援団の練習に吹奏楽  
部だけが、外れているのを見て応援団の

練習をしたく無い為その日に入部したの  
が動機でした。当時はトロンボーンで3  
年間やりましたが、今振り返って考えて  
みると実に不合理な吹き方を習っていた  
為あまり上手に吹けず、今でもトロンボ  
ーンには何かコンプレックスを感じてい  
ます。

さて、当バンドに入団のきっかけは、  
中村先生の自衛隊音楽隊の時の部下であ  
った為です。たぶん3年間位、何度も誘  
われてから入団しました。音楽隊を退職  
後10年以上も過ぎていましたので、決し  
て上手には吹けないと分かっていたので、決  
しては、しかし納戸に置きっぱなしになっ  
ていた、我が青春を共にしたブージーの  
チューバをもう一度試しに吹いたところ、  
まあまあ吹けるようになったのでした。

しかし、これは、練習不足でも一時は  
吹けることを知っていましたので、だか  
ら今でもあまり練習はしません、あまり  
練習しすぎると練習不足モードまでに戻  
るからです。長い時間吹きつづけると唇  
がハレ、指が腫痛炎になるからです。事  
実なつた事がありました。

さて、過激な意見を言わせてもらえれ  
ば、私は吹奏楽というジャンルの音楽は  
あまり心底好きではありません。今でも  
演奏会の録音は聴きませんし、家でも吹  
奏楽は聴きません。と言うよりCDは一  
枚もありません。好きなのは、ジャズミ  
ュージックです。ジャズは個人の能力が  
発揮される音楽だからです。振り返れば  
修学旅行で上野のジャズライブハウスで



聴いた時から自分の好みに感性に合っていました。

新しい吹奏楽を目指したい。

今の吹奏楽は一般大衆に受け入れられている音楽ではない。それはプロの吹奏楽団はいいのが現実です。私はもともと大衆に迎合した音楽で聴いてもらおうという姿勢を大切にしたいです。今のバンドのメンバーに楽器で辛い思いをしないでほしい。

かつて音楽隊では#やbを見逃すと、先輩の容赦ない足グリがとんできました。私の練習の情熱の根本は「いつか先輩を追い抜いてやる」という、意地だけでした。当然そこに音楽を楽しむ事などほとんどありませんでした。だからバンドのメンバーも少し位のミスなど気にしないではいいです。札幌もN響のメンバーでも長い休みは必ず見えないように指を折ってカウントしています。決して幼稚なことではありません。大切なのは音楽を感じて楽しむ事だと思います。

音楽を感じてほしい。

カザルスの弾く、口でうなりながらの鳥の歌もオスカーパーターソンの口でうなりながらのピアノも同じだと思います。楽器を上手に弾けるからそれで上手と思うのではなく、下手だから音楽を感じるのが下手ではなく、自分の感性、感じ方を大事にしてほしいです。コンクールで入賞した人達が弾く名曲よりもカラオケスナックで歌う歌の方がその人の人生が見えて私は好きです。

今回、定期演奏会の実行委員をさせて頂く事になり、皆様に色々ご協力をお願いいたします。しかし、私の意見が一人よがりと思われた時には、遠慮なくご注意・ご指摘下さいませ。

私がチューバの最も気に入っている点他のどの楽器にも負けないすばらしいところは、光っている部分が最も多く、置いているだけで存在感があるところです。しかし、最も気に入らない点は、吹奏楽の世界では、ワンパターンのアレンジですぐあきてしまします。最も色々な事ができる要素が色々あるのに編曲者の人達の理解が少ない事です。スターウォーズでのチューバの使い方を学習して欲しいです。又、逆にオーケストラを編曲した際、コントラバスの運指をそのまま記譜にしているパターンです。10小節も息を吸わずに最後までトリルをかけて無茶なパターンです。

### 『故、清野 雄二君を偲んで』

平成19年5月の月例会の担当はホルンセクションの番であった。そんな4月の或る日、私は彼(清野君)へ私は彼を君付けで呼んでいた。に來月の月例会の幹事を依頼した。日時・場所・会費等全部を任せてみたかったからである。彼は、快く引き受けてくれたのでその日を楽しみに待つ事にした。大型連休も終り「会

実施の約2週間前の練習日に彼が当日の会のために準備した案内図等を記したチラシを持ってきて「これでどうですか」と見せてくれた。私はチラシを見るなりOK、OKと指でO印を作って答えた。彼は安心してらしく微笑んだ。その後各プレイヤーにチラシを配り終わったところで私が皆さん方に、今回はHrが担当すること、直接の世話人は、彼である事等について紹介を兼ねてあいさつをした。

いよいよ会の当日となり私も初めて行く場所なので下調べを充分にした(ちなみに私は重症の方向音痴、知る人多数)。めざすは、新築似JR駅前付近の寿司屋店へ入ると正面に彼が居て会費徴収のため待機中であつた。参加者の中にTuba 2人中、富好嬢、Ciaの高橋由美さんが顔を揃え会に花を添えていただいた。やがて会もたけなわになり、何時もと変わらずシニアの話に花が咲き満開になる頃、2時間超の会も最高潮に達し次回の再開を期し乾杯、散会となつた。帰り際私は彼に「シニア吹奏楽団ホルン会」を結成しようとしたところ喜んで大賛成であつた。私は今日の会の準備に対し労いの言葉をかけホルンパートの団結とレベルアップのためがんばろうと固い握手をして当夜は別れた。

彼は、入団後もなく新しい楽器を持つて練習にやってきました。「ホルン買いました」と嬉しそうに私に見せてくれた。ア、やる気充分だなーと直感した。その時彼は、元々Tubaを吹いていて今回か

らHrに転向した事と、指使い、音をつかむ事等に少々時間がかかりますが、がんばりますと自信あり気に私に言ってくれた。私もTubaからHrに転向した事を話した。おおよその頃から私はシニアのホルン体制を真剣に考えていた。若手を育てたいという気持からである。これまでシニアの過去の時代を通じHrパーが「生粋のシニア男性4人組」は初めてで私自身誇りを感じていた。

ヨシ何か目標を持って練習をしようと思つた。それは我々Hrの左後ろ隣に位置しているTubaパートに的をしばりあるのパートに挑戦したいと思つた。近年中に肩を並べるよう努力したいーそういう気持で一杯だった。まず手をつける事は、14回定演終了後から彼をHrのトップに抜擢し私は背後から援護する構想である。この構想について彼に話をし納得させておいた。もうこれからは他バンドからの応援必要なし。前途洋々。希望に溢れていたのを昨日のように思えてならない。

そんなある夜それは定演50日位前の9月4日の夜20時頃、とても信じられない悲報の電話があつた。彼の奥様からである。予期せぬ出来事とはこの事だろう。何と彼が離島の奥尻島へ出張中亡くなつて現在遺体は、船で札幌へ向かつていると奥様の生々しいそして涙声に、私は何だ何だそれはどういう事だと思つただけで、次の言葉が見つからなかつた。黙。黙。本当ですか。どうしてですか。

亡くなったのは本当ですか。と繰り返すばかり。頭の中が真白とはこの事か。本当にガツクリ。

当夜の悲報をシニアの誰よりも先に私に伝えていただいた事について、奥様から次のようなコメントがあった。彼はシニアでの練習の事、私と全話し一緒に吹いている事など、一郎始終練習日の様子を伝え楽しそうに、勘米良さんにお世話になり一番先に報せたいと言われた。改めてこの事について書き添えたい。残された奥様と3人の子供さんの心境は如何なものか、私自身心が乱れて慰める言葉すら出てこなかった。遺族の方に申しわけないという気持ちで一杯だった。そして、副団長、事務局、関係者、Hrの仲間に悲報をそれぞれ伝えた。伝えた後私は思った。前述した構想が崩れ去った。しかしながら、「死人に口無し」と言うものの、彼も死にたくて死んだはずはない、定演を目前に申し訳ないと言っているようだとも思った。シニアのHrは3人になった事に不安はあったが、最悪これでも良いと思つた。本番は3人で望み、4人目の椅子に花を置いて彼を慰めたかったが諸々の事情で実現できなかった。今も考えると、残念で彼に申し訳ないと思つている。私の力不足の一事に尽きる。葬儀等の行事にそれぞれ何かの理由で参列できない事は仕方ないだろう。しかし、日移して出来るだけのプレイヤーが参加して霊を慰める機会があつてもいいのではないか。いわゆるシニアの物故

者(14年間で2人)に対し、ご冥福を祈る一時が必要と思う。この度の彼の突然死で、人の人生は年の順番ではない事が立証された。然しながら、中・高年の多い我がバンドでは、確率からいくと私を始めとする者が最先端を行つていると思う。明日は我が身か？

今回の故清野雄二君の死は、シニアにとつても我がHrにとつても大変な損失で、残念である。この悲しい出来事を無にしてはいけない。時が過ぎると忘れがちになるけれども、我々の仲間だった元プレイヤーの魂は生き続けている、と私は思う。(注・私は無宗教である)。

「生粋のシニア男性Hr4人組」の構想は持ち越しとなつたが、清野君「夢」をありがとう。私も、何時までシニアに在籍できるかは解らないが、私が居る間は、貴男の事を語り続けたい。そして、貴男が果たせなかつた夢と希望を残された我々Hrのメンバーで果たす努力をしなければならぬ。それは微力であっても、何らかの形でシニアに対し尽くす事でおおむね達成できると信じている。

清野君、「千の風」に乗つて練習日は遊びに来て下さい。そして何時までも我々を見守って下さい。「改めて安らかに」ご遺族の方々の悲しみを察しながらべんに置きませす。

19・12・10 勘米良 二六生

## 編集後記

・早速仕事が遅くて申しわけありません！  
とうとう2008年になり、第15回定期演奏会の準備が着々と進んでおりますね。とても楽しみです。

昨年はいろいろな出来事がありました。悲しいこともありましたが。おめでたいこともありましたが(私ではありません)。生きて行く上で本当にたくさんの経験をしなきゃいけないんだな、とつくづく思つた年でした。

さて今年(平成20年)ということで、シニアメンバーにも平成生まれの方がやってくるのでは……と思つているのは私だけでしょうか……(梨)

編集長自らが諸事情により休団してしまい、皆さんには大変ご迷惑をおかけしております。シニア便りも、前回の発行からかなりの月日が経つてしまいましたが、今回は前回からスタッフに加わつた(梨)さんが頑張つてくれて、ようやく皆さんにお届けできる運びとなりました。(梨)さん、忙しいところ、本当にありがとう。相当な負担をかけてしまい、申し訳なくも思つています。皆さんも、(梨)さんの労をねぎらつてあげてください。

今回も、心に響く文章を多く寄せていただきました。ご協力いただいた方々に感謝申し上げます。今年(平成)15周年の節目の年です。私見を述べるのをお許しいただけるならば、私も何らかの形で物故者に思いを馳せる機会があればと考えています。それぞれに北海道シニア吹奏楽団に対して熱い思いを抱きつつ、志半ばで世を去らなければならなかつたという事実は、ご遺族の方々の悲しみとともに真摯に受け止める必要があると思つています。(近)

〔中村先生出題のクイズの答え〕

- ①オッタヒーノ(独)②ヒッコロ、③ベッケン(独)④シンバル、⑤ホサウネ(独)
- ⑥トロンボーン、⑦マリン、⑧ケース(仏)⑨大太鼓、⑩アルパ(西)⑪ハーフ、(独)
- ⑫ドイツ語(仏)⑬フランス語(西)⑭スペイン語です。